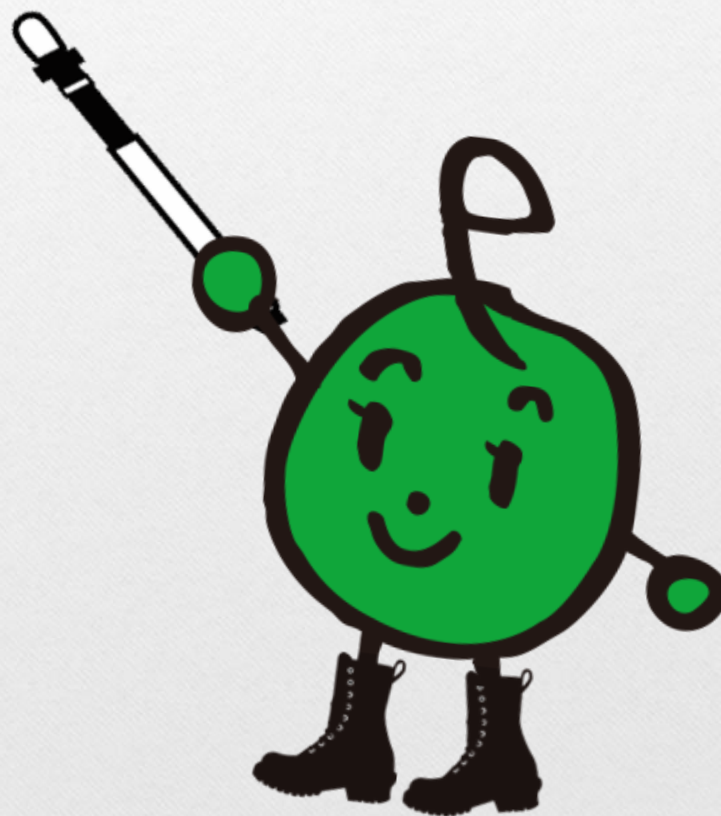


2023年度 こどもエコクラブ

サポーター
アンケート
結果報告書



公益財団法人日本環境協会
こどもエコクラブ全国事務局



調査のあらまし

こどもエコクラブのサポーター及び活動の実態を把握し、こどもエコクラブが持続可能な社会づくりの担い手育成に対してどのように貢献しているか、またどのような課題を抱えているかを明らかにするとともに、調査結果を関係者と共有し、今後の事業展開の参考としていただきます。

【実施概要】

1. 対象：2023年度登録クラブのうち

①メールアドレスが登録されている 1,605クラブ

②FAX番号が登録されている 19クラブ

合計1,624クラブ

※2月16日時点

2. 実施期間：2024年2月16日～3月21日

3. 実施方法

- ・アンケート回答用ウェブページを作成、メールまたはFAXでURLを案内し回答を依頼
- ・インターネットが使用できないクラブにはFAXでの回答を依頼

4. 有効回答数

①ウェブサイトからの回答：132件

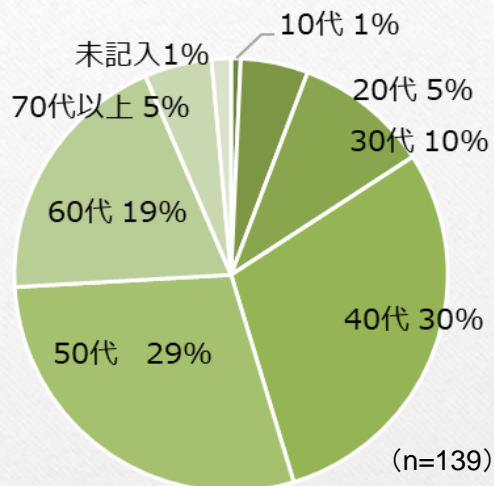
②FAX等での回答：7件

合計：139件（回答率 8.6%）

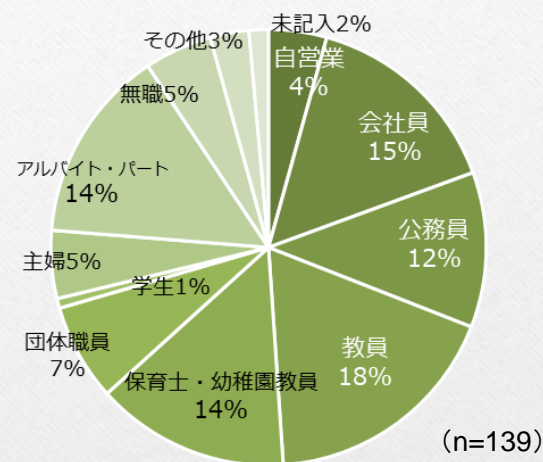
※ウェブサイト回答率 8.2%、FAX回答率 36.8%

多様な年代・職業のサポーターさんからご回答いただきました

◆サポーター年代

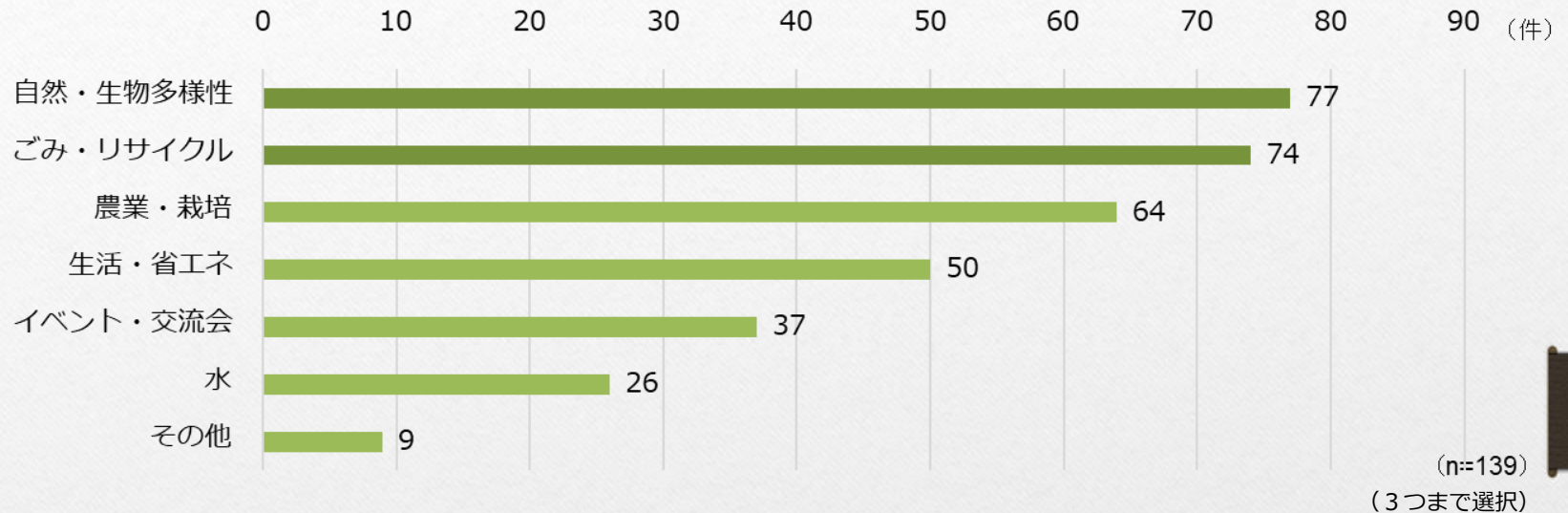


◆サポーター職業



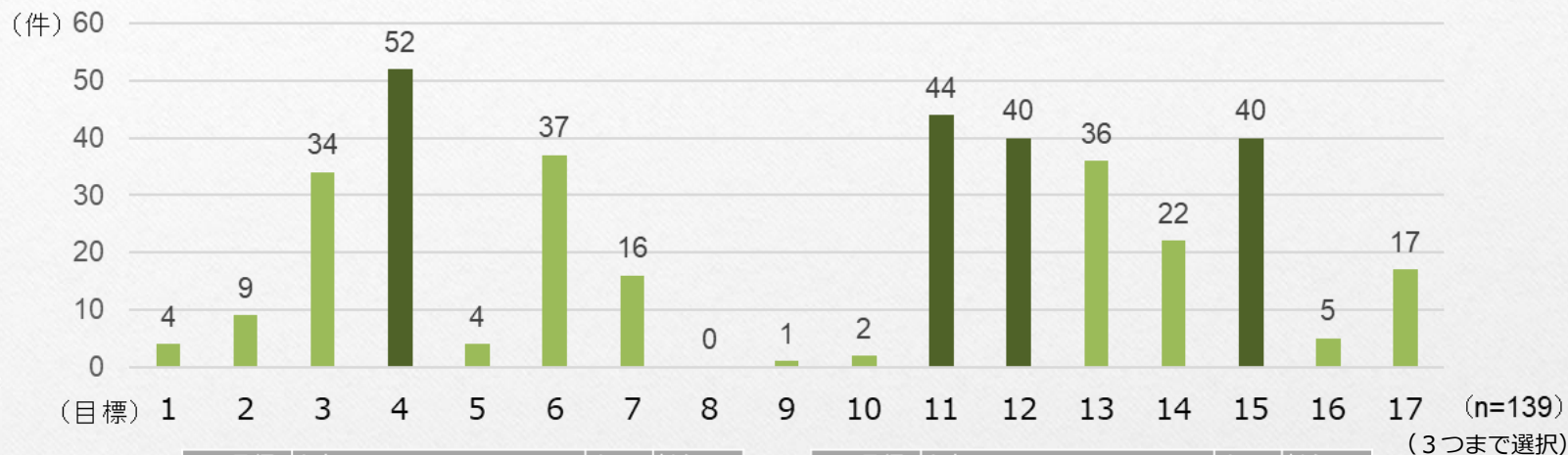
- 上の図はアンケートに回答をいただいたクラブのサポーターの年代、職業を表します
- 様々な職業の方が子どもたちの環境活動をサポートしてくださっていることがわかりました
- 年代は40～60代中心、職業は教員、保育士・幼稚園教員がやや多めで合計32%となりました
- セクターを越えて地域の環境問題に携わっていただいている方々とのネットワークを築いていることが本事業の大きな強みです。この強みを活かして地域課題解決のためにマルチ・ステークホルダーによる協働をさらに強化することが今後の課題です

多様な活動内容で活動を行っています



- 上の図は、クラブの活動内容を主なものを回答いただいたものです
- **およそ半数のクラブが生き物観察・調査、生息地の保全活動などの「自然・生物多様性」、清掃活動やリサイクル工作などの「ごみ・リサイクル」に関する活動**をしていることがわかりました
- その他としては、壁新聞づくり、エコライフ教室、防災・取組発表、食ロスや買い物体験といった食に関する活動等が挙げられています
- 1回あたりの活動平均参加人数は、こども26.1人、サポーター6.4人でした
(最高数値：こども329人、サポーター30人)

SDGs目標「4.質の高い教育」を中心とした内容で活動しています



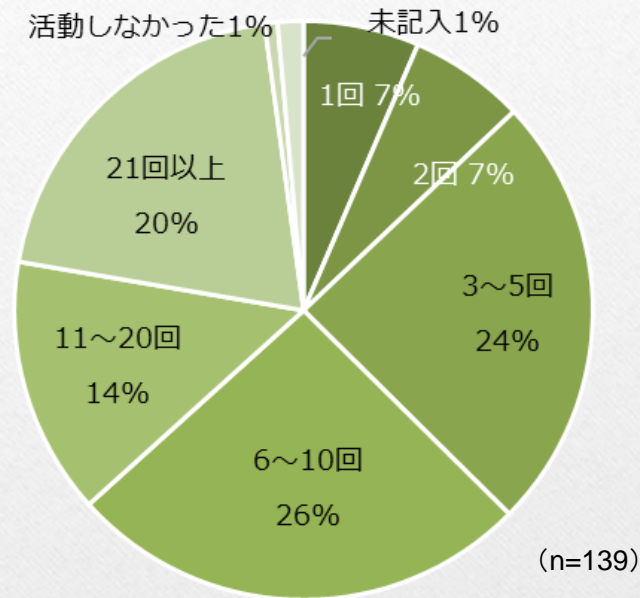
SDGs目標	内容	はい	割合
目標1	貧困をなくす	4	2.9%
目標2	飢餓をなくす	9	6.5%
目標3	健康と福祉	34	24.5%
目標4	質の高い教育	52	37.4%
目標5	ジェンダー平等	4	2.9%
目標6	水と衛生	37	26.6%
目標7	クリーンエネルギー	16	11.5%
目標8	経済成長	0	0.0%
目標9	産業・技術革新・社会基盤	1	0.7%

SDGs目標	内容	はい	割合
目標10	格差の是正	2	1.4%
目標11	持続可能なまちづくり	44	31.7%
目標12	持続可能な消費と生産	40	28.8%
目標13	気候変動へのアクション	36	25.9%
目標14	海洋資源	22	15.8%
目標15	陸上資源	40	28.8%
目標16	平和・正義・有効な制度	5	3.6%
目標17	パートナーシップ	17	12.2%

(3つまで選択)

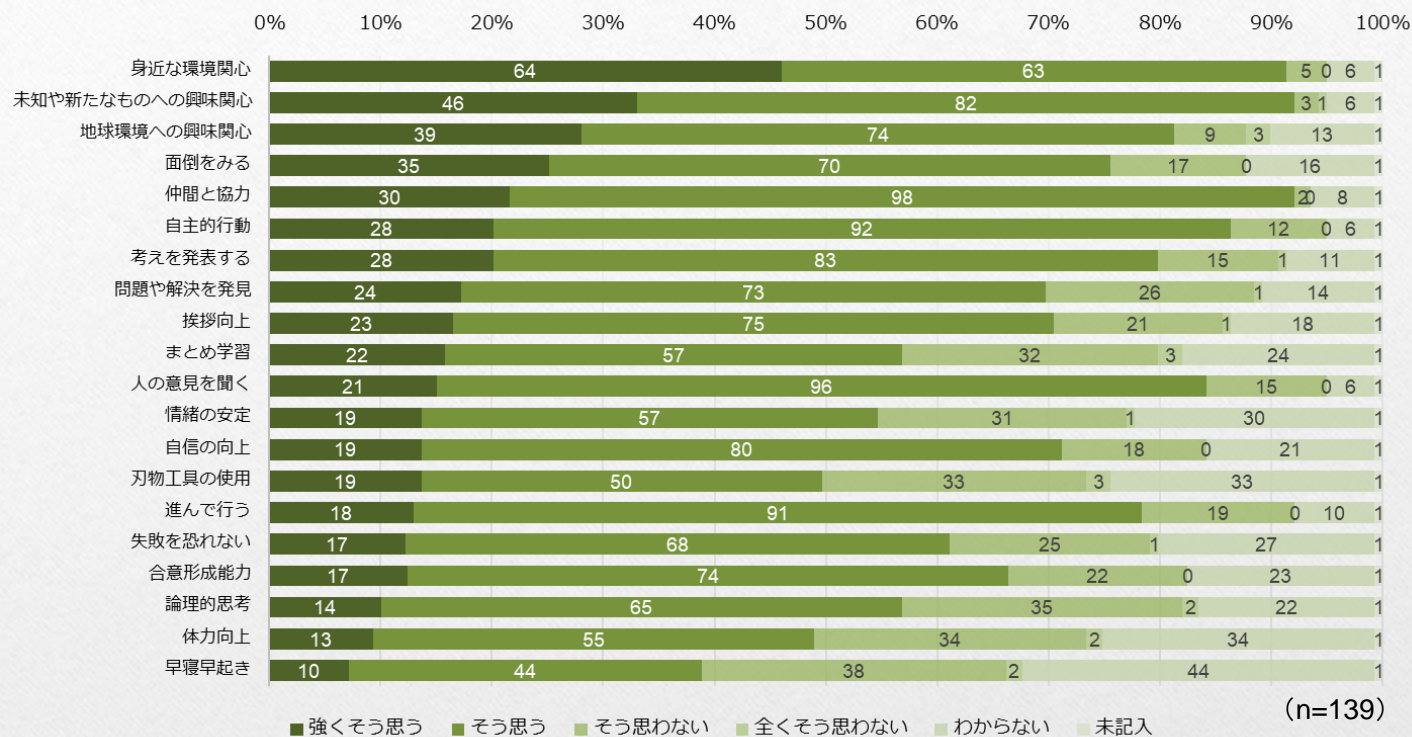
- 上の図は活動がSDGsのどの項目に該当するかについて回答いただいたものです
- **目標4「質の高い教育」が一番多く、約37%**でした
- 目標11「持続可能なまちづくり」が約32%、目標12「持続可能な消費と生産」及び目標15「陸上資源」が約28%と続いて多く、活動に取り入れているクラブが多い傾向であることがわかります

継続した繰り返しの活動で子どもの成長を促しています



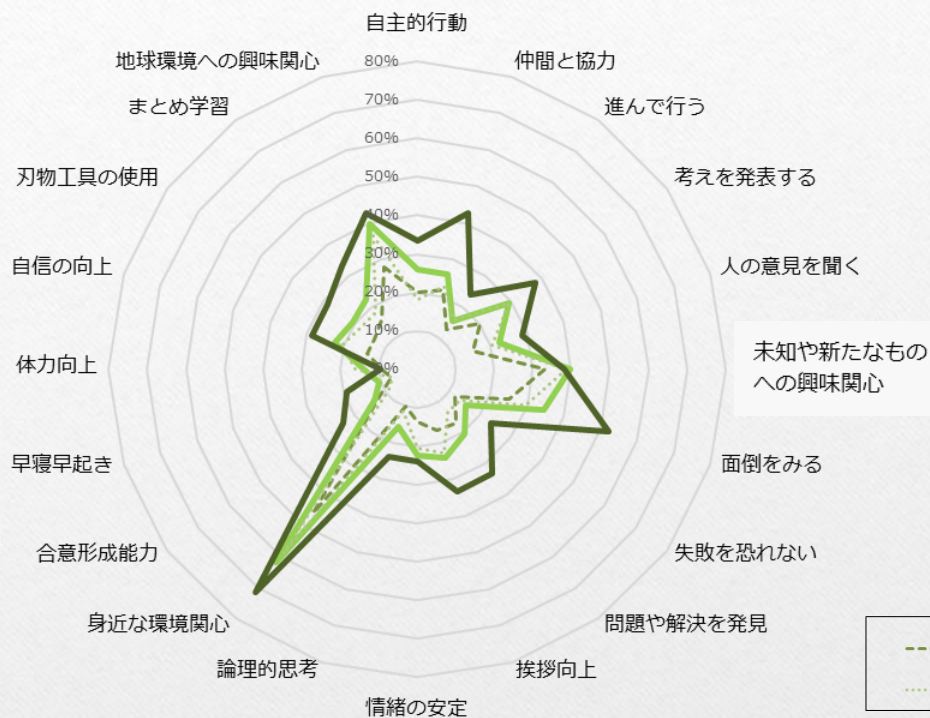
- 上の図は、1年間にクラブが行った活動の回数を表しています
- 84%のクラブが3回／年以上活動していることがわかりました
- 約34%のクラブが毎月1回以上活動しており、**継続して繰り返し活動することにより子どもたちの成長を促すこどもエコクラブのコンセプトが浸透している**ことがうかがえます

こどもエコクラブの活動は子どもの成長を促します



- 上の図は活動によって子どもがどのように成長していると感じているかを聞いたものです
- 4段階評価の最高評価である「強くそう思う」の件数としては、「**身近な環境関心**」「**未知や新たなものへの興味関心**」「**地球環境への関心**」が多く、
- 強くそう思う+そう思うの件数でみると、「**仲間と協力**」が大きく件数を伸ばしており、「**面倒を見る**」の件数も高めという傾向がみられました

特に壁新聞や活動レポート作成などのまとめ学習は効果的です

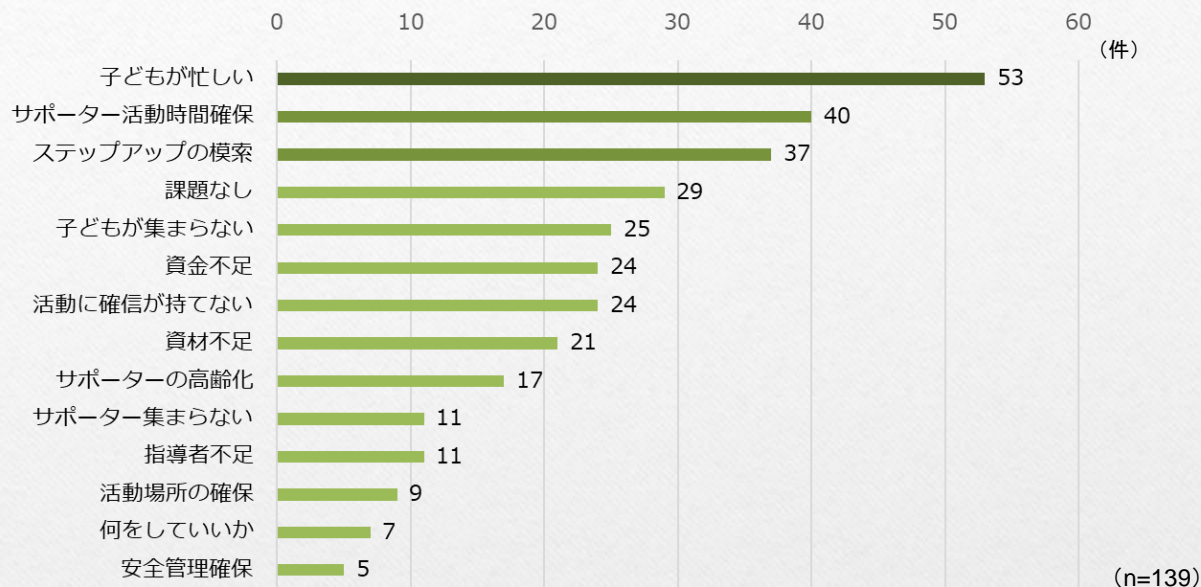


- 壁新聞、活動レポート、絵日記等の「まとめ学習」を実施した「何らかの活動あり」については、全体的にこどもたちの成長・変化に好影響を与えていることがわかりました
- 特に壁新聞作成の活動に取り組んだ「壁新聞あり」については、すべての項目において群を抜いて高い数値が出ています（特に「仲間と協力」「考えを発表」「面倒をみる」「問題や解決策を発見」については他と比べて高い）

こどもエコクラブの活動を通して、身近な自然や環境への関心が高まり、また、知らないこと、新しいものに興味・関心を持つようになります。それが地球環境への関心にもつながり大きな問題から自分事へと意識に変化が生まれます。また、仲間と協力し、年長者が年少者の面倒をみるようになります。

こどもエコクラブは、協働を通して若年層の人材を育成し、地域の環境に目を向け、地球規模の環境向上への意識変容につながっていると考えられます。特に、壁新聞やレポート等のまとめ学習を通して、こどもたちの成長に大きな好影響を与えていると思われます。

サポーターが課題としてとらえていること



- 上の図はサポーターが課題としてとらえていることを聞いたものです
- サポーターも子どもも忙しく、時間がとりにくい、集まるタイミングが課題ととらえるクラブが多い結果でした（昨年度の調査でも「子どもが忙しい」「自分が忙しい」が多い結果でした）
- 今後のステップアップへの模索を課題ととらえるサポーターも一定数いました
- 一方で、課題はないととらえるサポーターもいらっしゃる状況です

ステップアップの指標やサポーターさんへの活動報告交流や研修について全国事務局で強化する必要があると考えています。

課題を克服するために、事務局に望むこと・実践していること1

- **地域での連携・構築に関すること**

地域の方への声掛けを実施している、JA・農家との連携を模索しているという前向きな声がある一方で、外のクラブとの協力連携希望、学校区での合同活動（協働相手発掘）を希望する声や地域での関係構築の方法を知りたいという声などがありました。

- **事例の共有や、発表の場に関すること**

活動事例集の希望や、企画や事例の共有希望、動画を活用した活動の紹介や工作を希望する声がありました。また、中学生メンバーへの活動アドバイスの場、中高生の発表の場があるとよいという声もありました。

- **活動支援に関すること**

助成金を得た、ステップアップしながら活動資金を得るようにしているという克服した声が挙がっている一方で、無料講師派遣の紹介希望や（県外で利用できなかったので）全国の少年自然の家が利用できるように調整してほしい、安価で活動体験ができる場所の紹介希望、補助金等のスタートアップ支援希望、全国フェスへの旅費支援希望、活動のサポートや企画提案の支援希望等の希望の声も出ていました。

課題を克服するために、事務局に望むこと・実践していること1

- **行政（コーディネーター）への希望**

関心の向上、県内での活動・イベントの案内を希望する声がある一方、現在の自治体の理解と支援への感謝を述べる声や、県事務局が発行する壁新聞への表彰状が活動のモチベーション向上につながっているというご意見をいただきました。

- **資材の提供について**

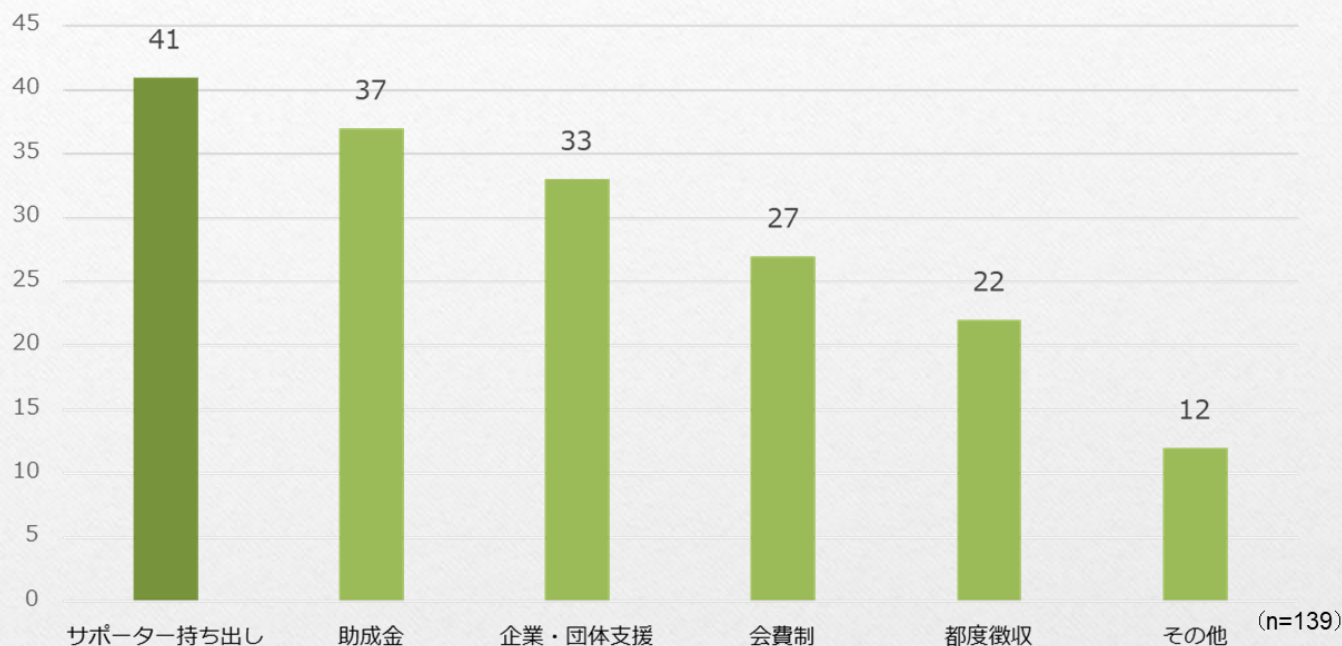
植樹や間伐などに必要な資材や、工作で必要な工具等が不足しており、中古でも良いので提供できる仕組みがあればよいという声が挙がっています。

- **その他**

壁新聞の締切延長を希望する声、学童保育での屋内の活動が中心で悩ましいという悩みの声、学童保育での活動から家庭へ波及させたい、「どんぐり銀行」の波及を希望する声がありました。

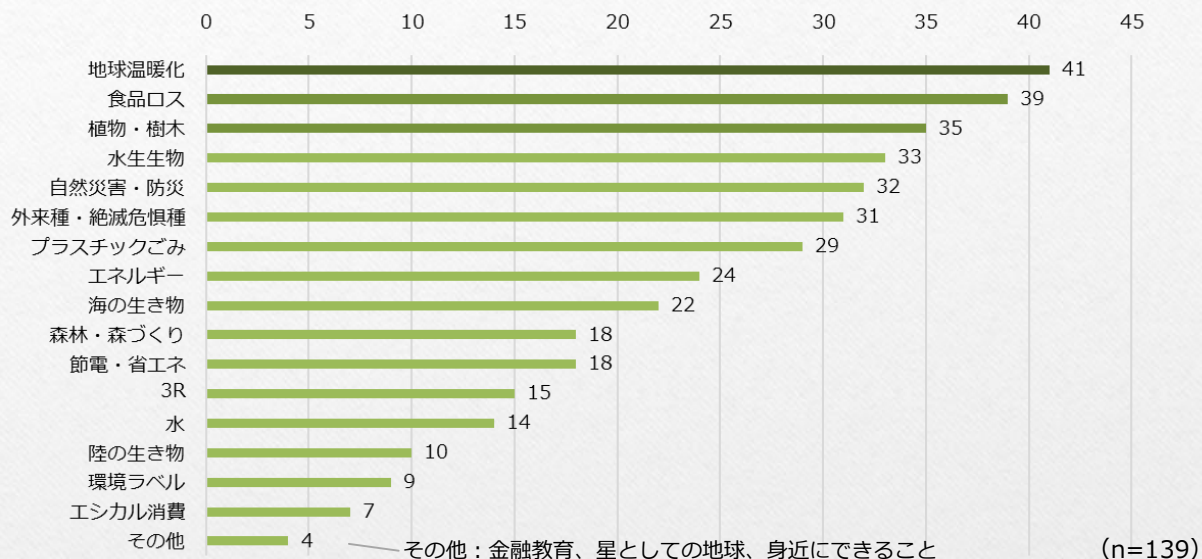
一方で、子どもたちの希望を聞いて活動したり、子どもの関心を重視するように心がけているという工夫の声や、教員による研究推進委員会の発足、SNSを活用した積極的な発信を行っているという声も挙がっていました。

活動に必要な経費や資金の調達について



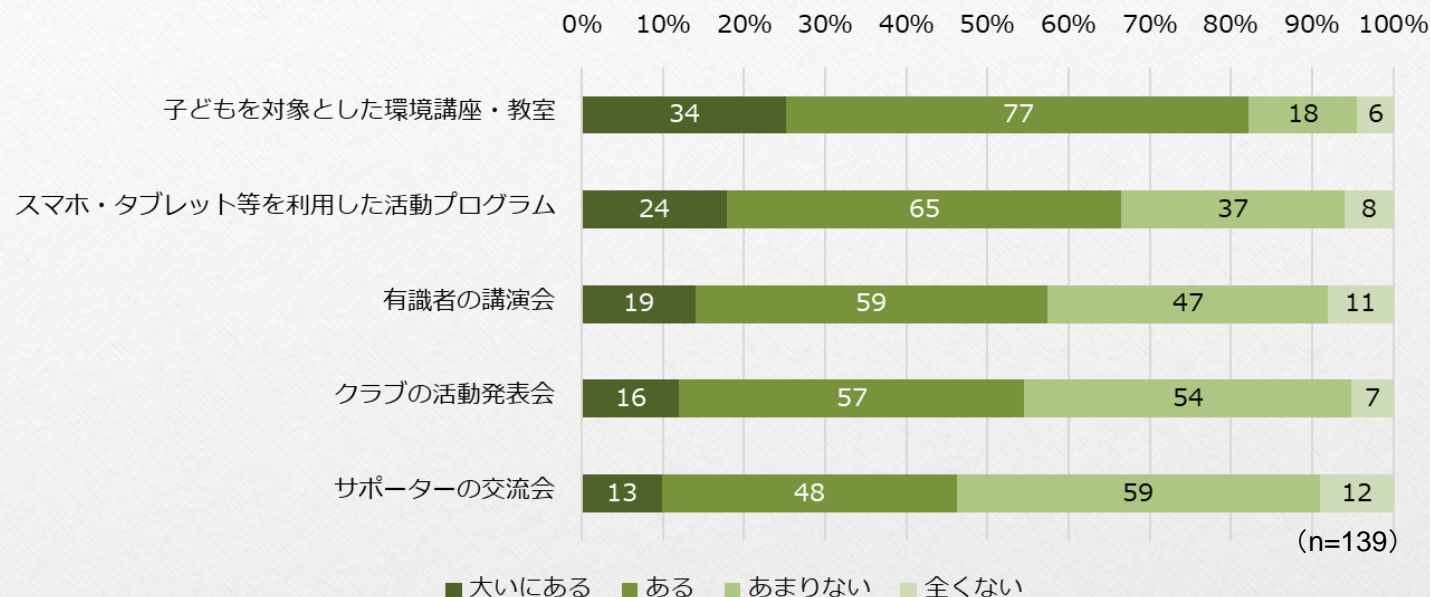
- サポーターが持ち出しで自己負担をしている件数が多めではあったものの、企業や団体からの支援や助成金をうまく活用し、資金を得ている状況もうかがえました
- その他の内訳では、お金がかからない活動を行うようにしているという声が多く聞かれました（4件／12件）

新たなプログラム・コンテンツに希望をするテーマについて



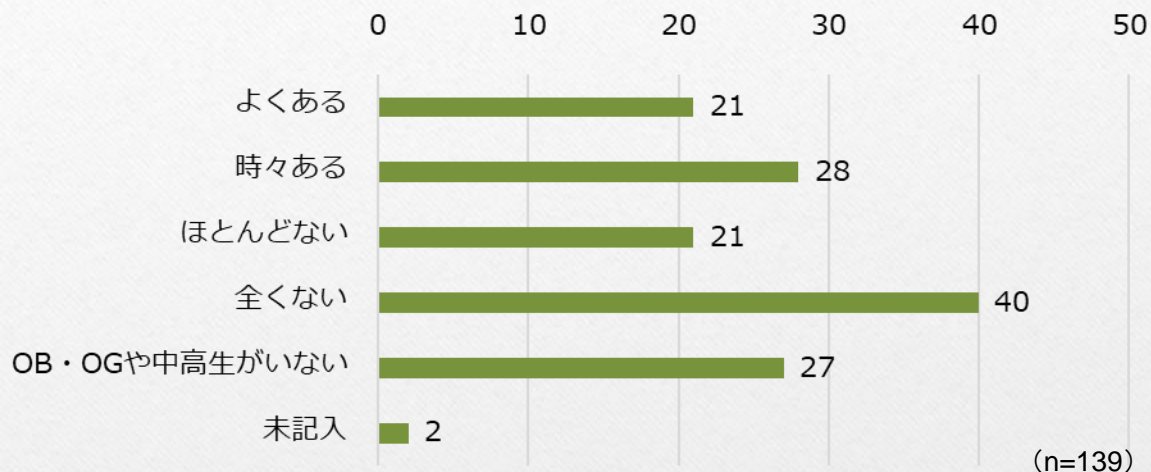
- 上の図は新たに希望するプログラム・コンテンツを3つまで聞いたものです
- 前述の「現在取り組んでいる活動」において「地球温暖化」はあまり多くなかったことから、取り組みたい（取組しなければいけない）と思いつつも適切なコンテンツがないため取り掛かれていない可能性考えられたため、**身近にできる入口から「地球温暖化」「脱炭素」の緩和策につながるものに加えて、自然災害・防災も一定数の希望があることから、近年の異常気象を受けた、適応策も視野に入れるとよいと考えています**
- 食品ロスについては幼児も毎日取り組めることから、食育と併せて活動できるコンテンツがあるとよいと考えられます

オンラインやデジタル機器を活用した活動・イベントへの関心について



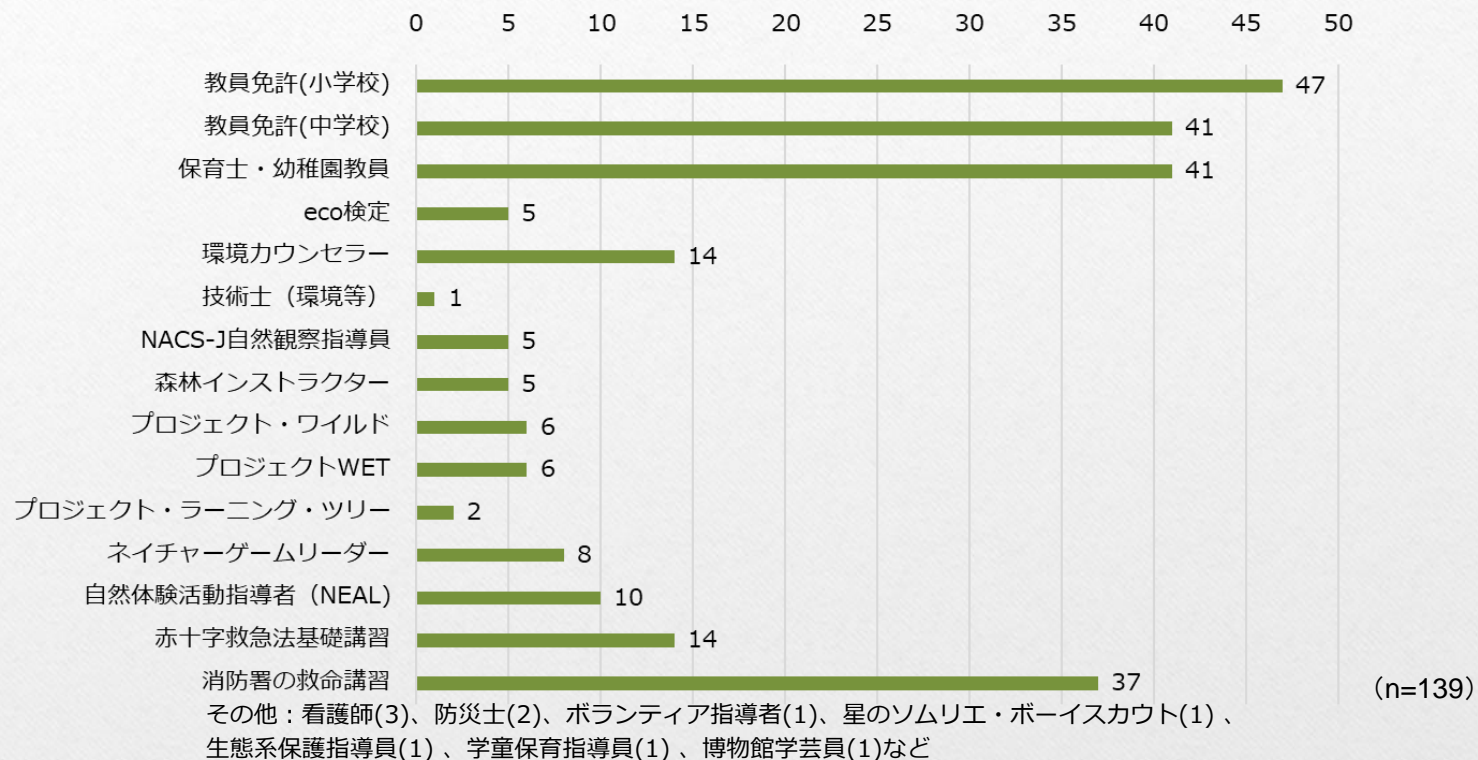
- 上の図は、オンライン・デジタル機器を活用することへの関心を示しています
- 子どもを対象とした環境講座・教室は関心が高いことがわかりました
- 一方で、活動発表や交流についてはオンラインはさほど好まれない傾向であることがわかります（対面重視の可能性が高いと思われます）
- スマホ・タブレット等を利用した活動プログラムは一定数需要があるということが推察されます

こどもエコクラブOB・OGや中高生のかかわり方について



- 上の図は、OBやOG、中高生がどの程度関わっているかを聞いた結果です
- 「全くない」「OB・OGがいない」が多い状況がわかります
- 一方でよくある、時々あるを合わせると36%であり、一定数、OBやOGが関わっているクラブもあることがわかります
- 地域近隣のクラブでOB・OGが活躍しているクラブがある場合は、**情報共有や人材交流があるような仕組みができれば良い**と思われます

サポーターが所有する資格について



- 小学校・中学校教員免許、保育士・幼稚園教員の資格を持っているサポーターが約3割。**教育のプロフェッショナルが活動に関わっている**ことがわかります。
- 消防署の救命講習を受けているサポーターは多く、子どもたちの活動における有事に備えている様子がうかがえます。

表彰について

- 今年度、こどもエコクラブの活動により賞を受けたかについてたずねました。
- ひとつでも表彰を受けたクラブは**139クラブ中、20クラブ**（約14%）でした。
- 賞を受けた表彰の種類や主な名称を下記に列挙します。
 - ✓ 内閣府主催 防災教育チャレンジプラン
 - ✓ 自治体主催 環境保全功労者賞、ふるさと教育表彰、町美化協力功労団体ボランティアスピリット賞、防災甲子園等（12件）
 - ✓ 団体主催 環境日記コンテスト、スピリットアワード、ジュニアセッションポスター等（11件）

<参考>

本アンケート調査とは別に、環境省主催「環境教育・ESD実践動画100選」では、8件のクラブが今年度、賞を受けています。

その他いただいたご意見について

- 活動レポートがホームページに掲載されると次回活動の意欲につながるというご意見がありました。
- 成長した時に気づける大切なことを蓄えて欲しいと思っています。全国にそんな子どもたちがいることを知らせて、交流の機会を作ってくださいるのはありがたいですという声もいただいております。
- SDGsの理解、子どもへの伝え方や実践例が難しいというご意見もありました。
- 普段かかわることのない地域の方々たちと、一つの目標に向かって同じときを過ごします。子供たちは自然と社会的行動を身に着け、気づけばふるさとを好きになり、詳しく地域の環境について知り、考えることができるようになるという声もいただきました。

こどもエコクラブ全国事務局では、アンケート結果を活かしてクラブのみなさまのお役に立つ情報やプログラムを展開していきたいと思っております。

ご回答いただきましたみなさま、ありがとうございました。

